

Narashino International Association



NIA SQUARE ファウエア

Quarterly News

第55号

2001年9月1日
習志野市国際交流協会

- Special
- What's New
- Report
- Report

アオザイの国、ベトナム
楽しく国際交流
イタリア便り他
夏祭り N.I.A.サンバ

- information
- N.I.A Youth
- Who's Who
- Challenge

N.I.A.事業報告
留学生生活とは?
こんにちは、コンニチハ
ザ・英文クロスワード

「アオザイの似合う国、ベトナム」

ウンティタンハン (N.I.A.会員)

シンチャオ! (今日は!)。私の名前は、ウンティタンハンです。ベトナムから日本に来て4年経ちました。私がベトナム南部のホーチミン市の骨董品店で働いている時、骨董品バイヤーだった主人と知り合い、結婚しました。

かつてサイゴンと呼ばれたホーチミンは、東洋の真珠とも評され、多くの賞賛を受けた街。ベトナムの表玄関で、オートバイが庶民の足となっています。外資系企業の進出が相次ぎ、モータリゼーションの波も押し寄せています。女性の民族衣装アオザイが涼やかに映える。対照的に、首都ハノイは、歴史と伝統の街で、自転車で移動する姿が目立つ。近年、日本人観光客が増えているベトナムは、どう変貌しているのか。

皆さんに、ベトナムの事をもっと知って欲しいのでここに紹介してみます。

首都は古寺の多い「ハノイ」

ベトナムの正式国名は、「ベトナム社会主義共和国」で、国土面積は、331,166km²、人口は、約7760万人(2000年)、北から南まで約1,700kmと細長い国です。その中、約80%は、山岳、丘陵、高原地帯です。ベトナム国境の北側は、中華人民共和国、北西側は、ラオス人民

民主共和国、南西側には、カンボジア王国と国境を接していて、東と南側は、南シナ海に面しています。首都は、北部の「ハノイ市」です。豊かな緑と多くの湖があり、静かで落ち着いた雰囲気で、フランス植民地時代の建物や、中国文化が色濃く香る歴史的な建物や、古寺が多く残っています。ベトナムで最初の大学の文廟、ホーチミン主席の遺体が安置されているホーチミン廟、ホーチミン博物館、1070年に建立された一柱寺等が有名です。

ハノイ市のある北部の気候は、春夏秋冬の四季があり、気温は、日本の大阪と同じ位です。でも夏はかなり蒸し暑いです。

一方、ベトナム中部は、世界遺産の王宮がある有名な「フエ市」があります。フエ市は、静かな街、王宮を中心にして栄えた歴史が街並みのいたるところに残されています。この古い街には多くのお祭りが残っています。ベトナム最後の王朝、グエン王朝(1802—1945年)の首都が置かれていた帝都で、フエ京城には、自然に溶け込む様にして建設された数百の寺院があります。この気候は、北部のハノイ市と違い乾期(11月—4月)と雨期(5月—10月)の二期だけで、8月、9月には台風もよくきます。気温は大体、28°Cから40°C。ベトナム北部とこの中部の山間部(ラオスとの国境付近)には、約670万人の



庶民的な市場(ハノイの下町)

少数民族達が高床式の家に住んでいます。

ベトナム南部は、ベトナム最大の商業都市、ホーチミン市があります。この気候は、中部と同じく二期しかなく、気温はやや低く、26°Cから38°Cぐらいです。ホーチミン市には、旧大統領官邸の統一会堂、戦争犯罪博物館、歴史館等コロニアルな建物が残っています。ホーチミンの北西30kmのところに、かの有名なクチトンネルがあります。トンネルの総延長は、200kmにも及びベトナム戦争時に掘られました。トンネルの幅は、30-70cm、高さ80-90cmの狭さですが、トンネルの中には、作戦本部や病院、井戸等も作られていました。ホーチミン市には、なぜか、これといったお祭りはありません。でも、日本人の好きなゴルフ場（トウドックゴルフ等）が市内から20kmの所にあり便利です。更に、350km離れた所に、高原都市、ダラットがあり気候的には、とても涼しくて、日本の軽井沢の感じです。ここは、ゴルフや避暑に最適です。



ハノイ市内の早朝の通勤風景

ベトナムの歴史

中国の脅威に曝されながら、独自の中華思想を育んできたベトナムは、19世紀後半の歐米列強に依る帝国主義の時代に、フランスの植民地支配に置かれる。その後、第二次世界大戦では日本軍に依る侵略を受け、戦後は、東西冷戦の影響で南北の二つの国家に分断された。アメリカに依る軍事介入で戦火にみまわれたベトナムは1975年のサイゴン陥落で、南北統一を成し遂げた。こうして波乱の歴史を乗り越えてきた懐の深いベトナムは今、開放政策で著しい経済発展を遂げつつあります。

ベトナムの祝祭日

中国と国境を接している為に中国文化の影響を大きく受けました。ベトナムの人口の約70%は、仏教徒です。中国の漢王朝以来の積極的な教化政策によるものだと言われています。ベトナムは、54の民族からなる多民族国家ですが、キン族が人口の半分を占めていて夫々の



ハンさんの結婚式

民族文化を作り上げています。

ベトナムの祝祭日は、日本と違いとても少ないです。まず、「テト」と呼ばれる陰暦の正月の前日と正月3日間の計4日間は、お休みです。毎年日付が違いますが昨年は、2月4日～7日でした。次に、4月30日は、サイゴン開放記念日の「戦勝日」です。かつてのベトナム民主共和国と南ベトナム共和国が1975年7月に統一され、現在のベトナム社会主義共和国と成りました。次に、5月1日は、「レイバーディ」で休みです。そして、9月2日は、「国慶節」で休みです。祝祭日は、これしかありません。昨年は、この他に、世界文化偉人であるホーチミン主席の誕生110年、国の統一25年、そして、ベトナム人の祖先法要の日である「フン神社祭」、「フェ古都祭」等伝統的な祭礼が催されました。

旧暦の8月15日には、「中秋の祭」があります。これは、豊作を祈願するお祭りで子供達の祭りと言っても過言ではありません。と言うのも、夜に子供達が張り子の虎の面を被り家を回ります。家々の人達は、この子供達にお菓子、アメ、オモチャ等をあげます。又、家々では、「餅」(中秋餅)を食べます。中国の「月餅」(クルミの実や南京豆を混ぜたあんを入れて丸く焼いたものやウグイス豆の漬しあんを上新粉の皮で包んだもの)と花を一緒に先祖の位牌の前に供えて「家内安全と五穀豊穣」を祈り、その後で家人達で食べます。

宿題・給食はナイ！学校は半日！

ベトナムの学校は、3ヶ月間の夏休みがあります。日本の学校と違い、宿題はないので夏休み中は田舎の親戚の家に遊びに行ったり、本当にのんびりと遊んで過ごします。

ベトナムの教育制度は、小学校は、1年生から5年生まで、中学校は、6年生から9年生まで、そして高等学校は、10年生から12年生まで、日本とは、ちょっと違います。でも大学は、日本と同じです。

ホーチミン市の小学校から高等学校までの授業時間は、午前6時45分から11時30分までの生徒と、午後0時

45分から5時30分までの生徒の二部制に分かれています。これは、生徒の数に対して教室の数が足りないためで、限られた教室を使いまわしているからです。そのため、給食も無ければ、お弁当を持って来る生徒もいません。何れにしろ、半日で学校は終つてしましますのでとても楽です。

男子生徒は、白いワイシャツに赤いスカーフと青いズボンが制服です。女子生徒は、小学校と中学校までは、男子生徒と同じ制服ですが、高校生になると、「白のアオザイ」の制服を着ます。

「アオザイ」は、日本の着物と一緒に、普通はパーティとか特別な時にしか着ません。でも学校の先生や、公務員、ホテルの従業員、航空会社のスチュワーデス等は、このアオザイを制服にしています。

因みに、公務員は、朝7時半から16時半まで働き(昼休みは1時間)、月曜日から金曜日までの週5日勤務です。

公用語は、「ベトナム語」

公用語は、ベトナム語です。ハノイ、ホーチミン等の都市部の若い世代の人びとには英語も通じます。

ベトナムでは、フランス統治の始まる1911年までは、漢字を使っていました。それ以降は「正式クオック・グー」と言うベトナム語の発音をローマ字化した文字を使っていました。祖父母の時代は、学校でフランス語を勉強しましたが、私の両親の時代から、英語が必修科目になっています。

今では、中国語、ロシア語、ドイツ語、日本語等を語学専門学校で勉強する人達も大勢います。



ホーチミン廟（首都ハノイ）

「いただきます」、「ごちそう様」は、言わないよ！

ベトナムの都市部では、朝食はほとんどの人が外食です。お店や屋台は、一年中休みなく営業しているから外食に不便は感じません。そのお店や屋台で「ファー」というベトナム式のうどんや、フランスパンのサンドウイッチを食べます。朝に米飯を食べる人は、まずいません。又、ベトナムでは、肉や魚を生のままで食べる習慣がありますので日本に来て「刺し身」は、暫らく食べられませ



故ホーチミンの邸宅

んでした。日本人が刺し身を好んで食べることを知っている人は少なく、この事を国の友人達が知ったらとても驚きます。ベトナムは、暑いのですが食事の時、熱いスープが付きものです。雷魚やパイナップルの入ったすっぱいスープが有名です。それと何んと言ってもベトナム料理には欠かせない調味料が「ヌックマム」です。ヌックマムは、魚やエビを醸酢させた「しょつる」と同じ様な調味料です。日本人が醤油を使う様に、ベトナム人は、ヌックマムを使います。でも、ヌックマムは、とても臭いので日本人には苦手な人も多いと思います。

常夏の国だけあって、果物や野菜は、一年中沢山の種類があります。日本では、種類が少なくて寂しい思いをしています。デパートの地下では時々見かけますが値段が高くて、おいしくないので買いません。ベトナムでは、食事の前に「いただきます」、食事の後に「ごちそうさま」と言いません。「さあ、食べましょう」だけです。

ボランティア活動って？

どんな職業の人達も、日本では、非常に熱心に働いています。ベトナムでは、熱心に働く人達は外資系の会社に勤めて高給をもらっているごく一握りです。公務員は、偉そうなだけで、不真面目、不親切です。その点日本では、市役所の職員も、警察官もとても親切で、全員真面目に働いています。

ベトナム人は、フレンドリーな人が多いのですが、何故かボランティア活動を見たことがありません。日本では、ボランティア活動が活発でとても感心しています。ベトナムでもいざれ日本の様に、進んでボランティア活動をする人達が出て来て欲しいものです。

最後に、色々書きましたが、ベトナムには、良い事も沢山あります。暖かい気候、おいしい食べ物、雄大な自然、安い物価等です。きれいな海岸にビーチリゾートも出来ていますし、今話題の「ベトナム雑貨」の買い物も楽しめますので、是非一度ベトナムに来て見てください。成田、ホーチミンの直行便も就航しています。

(文責：編集部 館川・木村)

このコーナーでは、習志野市内外で国際交流や世界で活躍された方々を紹介してきました。今回は、英語を学びながら世界の人々と交流を行っているグループ「ビギン」を取り上げました。ビギンの活動や国際交流への取り組みについて会長の古橋豊さんから報告してもらいました。

日本において世界各国の国情、文化、生活、宗教、習慣、教育、その他、外国人から見た日本の感想を英語で語つてもらい、国際社会の勉強とチャッカリ英語の勉強が出来ちゃう、て一言う事なのでーす！

たと
例えればですね

1. 伝統的な英国パブとビールの歴史：

ウォームビール（リアル・ビールの1種）を飲む最適な冷たさは12.5℃。最近はパブによってはビールをグラスに直接注ぐ店もあるが、最も美味しく飲むには、地下貯蔵のタルからハンドポンプでグラスに注ぐのが良く、その賞味期間も3日とか…・下戸でも一度は本場のパブで、その雰囲気と味を思いきり楽しんでみたいですね。

2. U.S.Aのアーミッシュの人々の生活状況：

17世紀末のスイスのメノー派のジャコブ・アンが創始者。プロテスタントの再洗礼派に属するメノー派でも、厳格な教養を持つ小会派で、主に米国のペンシルバニア、オハイオ、インディアナの各州及びカナダに信徒がいる。地味な服装、ガス・電気・車等の不使用など、簡素で禁欲的な生活を送っているとか。…未だに頑固に彼らの生き方を守りながら生活をしている人達がいるなんて、アメリカらしくそして世界は広い。

3. アフリカの女性から見たナイジェリアの現状。

4. ドイツ人の優雅な田園生活、整備されたサイクリング道路。

以上は最近聞くことが出来たほんの一例です。その他最近のトピックスで最も興味深いものを一つご紹介します。アメリカ人のゲストスピーカーで話題は、米国における近眼手術事情をご自分の体験に基づきビデオを見ながら非常に具体的に話して戴きました。私も知らなかつたのですが10年ほど前から米国で一般的に行われている手術で、ほんの30分位でメガネで不便を感じている（そうでない人も勿論いらっしゃいます）生活から開放されると言うもの、驚いたのは実際にゲストスピーカー本人が受けた手術の模様がビデオで全て記憶されており、アメリカらしいと思ったのは本人にビデオを渡して医者と患者が全て納得された状態にあること。それに今は手術



OHPを使用して説明するゲストスピーカー

する病院が幾つもあり既に価格競争が始まっている様です。

昨年（2000年）1年間では世界各国から31人のゲストスピーカーを招きました。アメリカ13、カナダ4、英國3、ドイツ2、その他オーストラリア、イラン、メキシコ、ネパール、南アフリカなど。ゲストスピーカーはスライド、楽器、OHP、ビデオなどを使って、解り易く英語でユーモアを交えて楽しく話してもらい気軽に質問できる雰囲気。またコーヒーブレイクで気軽に英会話を試しちゃう。不思議な事にコーヒーカップ片手に話す英語は殆ど通じてしまうそうだ、相手の事を理解しようと聴いてくれるんですね、これが国際交流の始まりなのかな、国と国もこうすればと妙に納得する（得な性格）。

それから…、年に一度のお楽しみはメンバー主催の“New Year Party”。もちろんお世話になったゲストスピーカーもご招待、この日だけ顔見せするメンバーがいるくらい楽しーんですよ。どんなかって？ それじゃ少しだけお教えしましょう。沢山な料理（来年は予算の関係で少し控えめ）をつまみに大いに飲んで（ソフトドリンクですよ！）日本語、英語が飛び交って盛り上がり、趣向をこらしたゲームで頭の体操、時には民族衣装で歌と踊りを披露してくれるゲストスピーカーもいます（ノーギャラで）。持ちよりプレゼントの交換（タンスの奥から出してくれる）、話題もさすが国際派の集まりで豊富、あっちこっちで外国人に日本語の特訓、この時だけチョ

「うえつかん あじ きぶん す
ピリ優越感を味わってユッタリ気分で楽しい時を過ご
します。ああ2002年1月が待ちどうしです。」



どれもおいしそうだね！
新年会の一コマ

さて、こんな風に楽しく英語を勉強してるのは、1983年に発足し現在も盛況を続けている英語サークル「ビギン」。その目的は：外国人のゲストを招いて英語でその都度違うテーマでお話してもらい、ゲストを通じて広く世界を知り国際交流と親睦を深めると言ったところでしようか。

このサークルは原則として毎月第2、3、4の土曜日10:00～12:00に袖ヶ浦公民館で開いています（8月は夏休みで休会）。

ゲストスピーカーは毎回代り、会員の年齢層は30代から70代、会員数は34人（内女性が2/3）。海外旅行が好きな人、海外での生活経験者、英語の先生、ヒヤリングは何とか出来るがしゃべる方はチョット（私のように）といろいろな会員がいますよ。英語を勉強したい、もっと磨きたい、国際社会を覗きたい、外国人と英語で話したい、知り合いたい、只、生の英語を聞いてみたい、などなど目的は様々…。

それでいいんじゃないかなー。

私達の住んでいる習志野市にも沢山の外国人がいらっしゃいます。英語はただの道具です。カタコトでも国際社会の窓を開けられますよ。さあ Let's begin !

ビギンへの入会希望その他お知りになりたい方は、下記へお問い合わせください。

会長：古橋 豊

Tel. Fax : 047-451-5656

E-mail : furuhash@ca.mbn.or.jp

わたし にほんぶんかかん 「私の日本文化観」

千葉工業大学教授 崔 峰

去る5月26日、N.I.A.総会の後、比較文化講演会を開催し、長年中国において日本語を研究されてきた崔峯教授から、中国人の日本文化論を聴きました。講演の一部ですが抜粋して皆様にお届けします。

1. 言葉の表現から見た日本文化

「～だろう」「～でしょう」「～ようだ」「～そうだ」など、日本語には推測や婉曲などの表現がとても多いですね。これに対して、中国人は断定的な表現を好みます。單刀直入に言うのが好きですね。この点では、日本語よりも英語に近いです。でも、日本人はあまり「NO」とは言いませんね。来日した直後に、私は大学の寮に住んだのですが、その後中国から家族を呼び寄せる事になり、広い部屋に住みたいと思い友人に相談しました。友人が「直接の責任者に聞いたほうがいい」というので、担当の先生に相談してみたところ、「難しい」と言われました。私は、「難しい」というこの言葉が「NO」という意味であるということが分かっていたので、それ以上聞きませんでしたが、中国人がこの言葉を聞いたら「難しいのは分かるけれど、どうすれば実現するか教えて欲しい」と聞き返してしまうでしょうね。

私が、もののはっきりと言ふのには、訳があります。それは、歴史的に他民族と接することが多かったからです。例えば、元朝時代や清朝時代のように少数民族に支配されたり、外民族に侵略された経験があったり、アヘン戦争以降不平等条約を多く結ばれた関係上、「メッセージを明確に伝えなければ誤解を招く」という考えが浸透しているからです。でも、中国やアメリカは、国土が広大ですし、民族の種類も多いので、10を伝えるには10全てを伝えることのできる話し手が素晴らしい人とされていますが、日本は国土が狭いし、民族の種類も少ないので、「1を聞いて10を知る」ではありませんが、10のメッセージ全てを伝えると押し付けがましくなってしまいます。ただ、相手が外国人であれば、日本人と同じような方法で接すると誤解を招くと思います。国際交流においては、何よりも先ず、相手を理解することが大事ですね。そして、理解するためには、言葉を学ぶだけではなく、言葉の背景にある文化もしっかりと学ばなければ人間同士の交流は出来ないと思います。

2. 文字と表記から見た日本文化

日本人が何気なく言う表現ですが、例えば「このデパートはいろいろなPRの方法を使っている」という文には、表意文字である漢字、そして音節表音文字であるひらがなとカタカナ、単音表音文字であるローマ字の4種類の文字が使われています。これは、日本文化の多様性を表していると思います。

イメージ的に言って、「漢字は優雅洗練で、造詣深いイメージがして、広々とした大河のように中国文化を代表する」と言えば、ひらがなは「親切で爽やか、日本文化を代表する」と言えます。カタカナは、「特殊語を表す記号的機能」で、中国人には冷たい感じがします。いずれにせよ、日本語の文字は、多元的で、多様性をもつものです。

Report／イタリア便り、アルゼンチン便り 他

イタリアから

宇井 由美子（イタリア在住）

私の住むヴェネト州のドロミティの山々（1000m以上）は、香りの良い野生のラッパ水仙が群れ咲き、丘と野原は朱赤のけしの花で埋め尽くされ、赤と白のじゅうたんの様です。そして、鳥たちの繁殖が始まり、にぎやかなこと！朝5時前には黒歌鳥（MERLOツグミの種類）のソプラノのメロディが始まり、続いて、かん高い欧コマドリ（PETTIROSSO）やスズメのさえずり、山鳩のソフトなハーモニーへと時間毎に変わってゆき、あまりの美声に自然と早朝から目覚める日々です。近くの公園に来ている白鳥は、人が近づいても平気でジーッと卵を抱いたままなのでビックリ！しました。隣町（3km）のノヴォレッドで6組の鶴が繁殖に成功した、という報道もありました。コウノトリの巣だ、と教えられた道を通るたびに観察のチャンスを狙っているのですが、ペリカン又はヘラサギの一種？と青サギを見つけただけで、撮影は至難の業です。今回は、谷津干潟にも縁のありそうな、オーストラリアに多いデンドロチーニヤ（樹皮模様のスワン）、コガモの撮影に成功したので送りました。

ドロミティの1500m以上の岩山に棲む保護鳥3種類の



デンドロチーニヤ（樹皮模様のスワン）

剥製の写真をサッパーダ（オーストリア国境近くのコルティナ地方の、スキーで有名な町）で撮りました。山の町で壁画製作の仕事の滞在中、鳴き声と一瞬の飛んだ姿を春に目撃しました。

ヴェネト州（北東部）には、数多くの、ラ・ムサール条約締結地の保護区がありますが、谷津干潟にあるような観察の施設はなく、個人の観察に限られているようです。この5年間で、近所のイタリア人夫妻3組を、谷津干潟自然観察センターに案内。「スバラシイ！子どもたちに役立つ、すてきなアイデア！」の連発でした。各々が夢中になって、スライドやビデオ、写真に撮り、訪ね

た先々の友人たちに見せたり、町の成人大学と老人大学講座、ちょっとした集いに公開紹介し、大好評です。

ヨーロッパは鳥の種類と数も多く、春の繁殖期は鳥たちの警戒心もうすらぎ、散歩の鳥の観察の絶好の機会となり、珍鳥に出会えるチャンスに胸を躍らせています。Buona Passeggiata！（すてきな散歩を！）



ヨーロッパ赤雷鳥のつがい
手前、大雷鳥（雄）

日本から二番目に遠い国から

平井 雅代（アルゼンチン在住）

NIAスクウェア読者の皆さん、こんにちは。私は、日本から二番目に遠い国、南米のアルゼンチンに住む、NIA会員です。

アルゼンチンと言えば、「サッカーの国」というイメージをお持ちだと思います。98年のワールドカップの一次リーグで日本と対戦したこと、そして、昨年のトヨタカップではボカ・ジュニアのサポーターが大挙押しかけたことはご記憶に新しいのではないかと思います。

私が住んでいるところは、首都ブエノス・アイレスから約1000キロ北方のコリエンテスという町です。人口は27万人、コリエンテス州の州都です。南緯約27.5度ですから、亜熱帯性気候です。

南米の地図を見ると、ブラジルがあまりに大きくて、アルゼンチンが小さく見えてしまうのですが、アルゼンチンも広大な国で、面積は日本の約8倍、世界で8番目に大きい国です。アルゼンチンは国土の西側はアンデス山脈ですが、中央部から東側はひたすら平原が広がっています。この平原は文字通り平原で、丘どころか、自転車をこぐのがつらくなるような坂さえないです。日本の友達に「遠くの方にアンデス山脈がうっすらとも見えないの？」なんて聞かれましたが、1000キロ離れている山が見えるわけありませんね。（関東平野とはスケールが違うのです）また、コリエンテスは

海岸からも遠い内陸の都市です。ですからコリエンテスには、山を見たことがない、海を見たことがないという人がたくさんいます。ところで、普通の日本人にとってアルゼンチンは地理的にはもちろん、心理的にも遠い国でしょう。「サッカー」以外に思いつくことといえば、「タンゴ」「牛が多い」くらいではないでしょうか。同様に、普通のアルゼンチン人にとっても、日本は遠い国です。日本のマンガはここでも人気があるし、首都のブエノス・アイレスでは、日本食が流行っているとは言え、日本企業の進出も少ないので、日本語ができれば役に立つということはありませんから、アジア地区のように日本語を学ぶ人も多くありません。(アルゼンチンで実用性がある外国語はなんと言っても英語と、隣国パラグアイで使われているポルトガル語です)それでも中には物好きな人がいて、日本に興味を持って、日本語を学び

南米大陸



たいという人がいます。私はコリエンテス唯一の日本語学校で、そんな人たちに日本語を教えています。次回は、その日本語学校のことを中心にお伝えしたいと思います。

しい家の生活リズムに慣れてくれました。学校が始まり、私はすばらしい英語教師になるべく全精力を注ぎました。お箸の使い方や電車の乗り方、和式トイレの使い方で悩むことはもうありませんでした。

日本の学校とアメリカの学校はまったく逆でした。クラスの大きさや時間割が違うだけでなく、教育方針も違いました。日本の生徒の置かれている教育環境には大変感心しました。アメリカの教育水準は日本に比べて見劣りします。クラブ活動に塾にと両方にこなす日本の生徒たちに、十分な睡眠時間があるのかと心配さえしました。私の経験では日本の高校生はアメリカの高校生の2倍は勉強していると思います。アメリカの大学では日本人学生の多くはトップクラスで卒業します。私は本当に生徒たちの勤勉さと根気には驚きました。

同じように、日本の学校の先生方にも感心させられました。アメリカでは当然のことである有給休暇を取ることもなく、朝7時から夕方の6時過ぎまで働いています。仕事に対する勤勉さはすばらしいと思います。

他にも一年間の日本滞在で私はさまざまなことを経験しました。初めて和式のトイレを使ったときは、思わずカギをトイレに落としてしまうという失敗もしました。また、納豆の匂いをかいだときは、みんなが納豆を本当に口に入れることを考えて泣きそうになりました。お休みを利用して日本各地の史跡、名所も数多く廻りました。春の桜の香り、夏の沖縄の涼しげな海、秋のすばらしい紅葉、冬の雪をかぶった富士山の姿。四季折々の景色を見ることができ、本当に幸運だったと思います。私が訪れたすべての場所が自分にとって特別なものとして心に焼き付いています。

とても残念ですが私は一年余りで日本を去ろうとしています。でも、もし子供ができたら、一緒にまた日本を訪問したいと思っています。本当に、ここでの経験は忘れない、とても貴重なものとなりました。日本でできた友達、学校の生徒たちみんなに「すばらしい経験をどうもありがとう」と言いたい。私たちは離れ離れになってしまいますが、一緒に過ごした想い出はいつも私の心に残っていることでしょう。

(編集部 亀井靖子訳)

ALTを終わるにあたって

Lisa Blewitt (タスカルーサ出身)

私は2000年の8月にALT (Assistant Language Teacher)として雇われました。姉妹都市Tuscaloosaと習志野の交流制度の一環で働き始めたのです。そして、故郷Alabamaを離れ、「海外で住んで働く」という生涯の夢を実現したのです。

私は期待と不安でいっぱいになりながら、2つの大きな鞄とともに習志野に到着しました。日本語が話せなかっただけでなく、故郷には、家族、ボーイフレンド、仕事を、大学院、そして多くの友達を残してきました。最初の数ヶ月はおびえている子犬のように見えたに違いありません。電話とインターネットが発明されていて本当に助かりました。おそらく当時の一ヶ月の出費の半分は電話代と切手代だったと思います。

数週間のホームシックはありましたが、だんだんと新



授業中のリサ・ブルウィット

“習志野きらっと2001” サンバパレードに初参加

山口 博（日本語ボランティア）

昨年まで、当NIAは、市役所前のお祭り広場にテントを出して、日本語ボランティア教室の受講者である外国人の皆さんに講師になっていただき、外国語講座を開いたり、それぞれの母国の紹介や、民族舞踊の披露をお願いしたりしてきましたが、今年は、がらりと趣向を変え、メイン行事のサンバパレードに参加しました。

初参加ということで不安もありましたが、幸い、準備係を引き受けてくださる方が大勢あり、参加の呼びかけ、踊りの練習、ポンポンなどの小道具作り等々、暑い中での大奮闘でした。

当日は、実際に、何人参加してくれるか、ちょっと不安でしたが、日本語ボランティア教室の外国人受講者や日本人講師、交流部会員、青少年部会員などのNIA会員が、家族や友人、知人も誘って多数参加され、子供も含め、その数ざっと70名にもなりました。

留守番の数名を残し、全員民族衣装など思い思いのいでたちで会場へ。1時間ほど待機したのち、早いテンポの音楽にのって踊りながら、20分ほどかけて、京成津田沼駅あたりから、市役所通りを一気に駆け抜け、お祭り広場で解散。正直、疲れたけれど、この快感は一体何だろう。もう、癖になりそう。

参加の皆さんに伺うと、大人も子供も、外国人も日本人も、一様に、とても楽しかったので、またやりたいと答えてくれました。来年は、あなたもぜひ参加してください。100人以上集まるといいですね。

頭に一句折り込んで、こんな現場レポートを書いてみました。

① エアコンの効いた部屋からおもてに出れば

外はむんむん 人いきれ

② ヌードまがいの仮装もあった 暑い真夏の夜でした

③ アキレス腱 伸ばして次は膝回し準備万端 番を待つ

④ インスタントと侮るなかれ 3分経ったら踊れるさ

⑤ Aチームの次Bチーム そして我らがCチーム

⑥ きらきら光るモールを纏い 踊りの列が動き出す

⑦ 来賓居並ぶ審査席 どこにあったか気が付かず

⑧ つま先を 高々あげてぐるりと回りや

気分だけは プロダンサー

⑨ 遠くて近いは男女の仲

近くで遠いはサンバのゴール

⑩ サンバのリズムはテンポが速い
ぼんやりしていると盆踊り

⑪ バケツの水をかぶったように
汗が噴き出し止まらない

⑫ はるか母国民族衣装 異国市民を楽しませ

⑬ ついにゴールのお祭り広場
踊り足りない顔もあり

⑭ 三々五々と家路をたどりや そよぐ夏風心地よい

⑮ 家族友達みんなでサンバ 来年もまた会いましょう



Information/N.I.A事業のお知らせ

2001年タスカルーサ市桜まつり 俳句コンテスト

タスカルーサ市の桜まつりは、3月から4月にかけて開催され、今年のテーマ「絆」のもとに姉妹都市締結15周年の楽しい祭りが展開されました。

多くのタスカルーサ市の人々が参加し、日本文化の紹介が多彩に行われたようです。

恒例の俳句コンテストも、今回は1290句の応募となりました。習志野市からは小、中学生を中心に428名の方々が応募しました。5月には、入賞者に対し、賞状と賞金が送られてきました。

入賞の方々と作品をご紹介します。

成人の部

3位 栗原 七郎 (谷津3丁目) 寒夕焼鴨の群れにも絆あり

中学生の部

1位 吉岡 麗 (第三中、3年) 白い鳥一緒に帰る暖かさ

小学校高学年の部

1位 根本 卓 (谷津小、5年) 雪降る夜小さなともしび友と見る

2位 三代川範彦 (谷津小、5年) 冬の空星座をみれば母の顔

3位 畑本 雄介 (谷津小、5年) 友達と肩を寄せあう雪の道

小学校低学年の部

1位 長田 綾奈 (谷津小、3年) 大なべのむこうに見える白い人

2位 織戸めぐみ (谷津小、3年) 弟とみこしをひいた夏祭り



“桜まつりのスナップが、姉妹都委員会バイロン・フィンリー氏より送られてきましたのでご紹介します”



刺しゅう



着物の展示



生花展



盆栽展

姉妹都市提携15周年市民訪問団

習志野市が、米国アラバマ州タスカルーサ市と姉妹都市提携を行って15周年になります。これを記念して、市民訪問団の募集をしています。訪問時期は、12月上旬ですが、詳細は、N.I.A事務局までお問い合わせ下さい。

N.I.A. Youth vol.38／このページは、青少年がつくるページです。

かめいやすこ せんごうかいいんしょうかい だいがく こうかんりゅうがくせい しゅうりつだいがく
亀井靖子さん（前号会員紹介）は、大学の交換留学生としてワシントン州立大学（2000年1～12月）に留学しました。以前日本文化を教えるため10ヶ月程イギリスにも留学経験があります。今回は交換留学生の時に感じた日本人留学生のエピソードを少し紹介します。
いよしのりゆき とき かん
井吉仙征（青少年部会長）

～「がんばって」は言わない？～

日本では良く使う「がんばって！」という言葉。テストがあるとき、仕事が忙しいとき何気に使ってしまう。私はいつもの調子でAmericaでも使っていた。「レポートがんばってね」「テストがんばってね」というように。

ある時留学生仲間から「“がんばって”はとても酷な言葉だ。」と注意されたことがある。英語が母国語でない我々留学生にとっては、授業についていくだけでも大変だ。予習復習をしても追いつかないことがある。授業で先生の言っていることが十分に分からず、その上Readingの速度がAmerica人に比べてかなり遅い。人に英語の能力の差はあると思うが、最後は時間との戦いになる。日本にいるときのようにすべてを網羅することは至難の技なのである。留学生は自分のできる限り自分の力を費やして学生生活を送っている。そんな友達に、深い意味はないとはいえ、気軽に「がんばって！」

と声をかけることは相手の負担になることがあるのだ。確かに声をかけることは大切なことである。しかしその方法が重要である。「がんばって！」と声をかけることが負担になるくらいに気持ちが追い込まれてしまう留学生が多いのだろう。確かに自分も同じ状況下で身をもって感じたことがある。自分の出来る範囲のことを確実にこなしていくことが重要かもしれない。また、他国の留学生と交流する等、適度な息抜きも必要となってくるだろう。



ワシントン州立大学卒業の日
(前列右亀井さん)

～英語を伸ばすなら日本？～

留学をしたら一度は劣等感の塊になることは必至だろう。自分が小学生のような気分になり、自信をなくし、益々内にこもってしまう人もいる。授業中は部屋の端で授業の進行を見守り、その後は図書館で勉強。食事は日本人と食べ、休日も日本人と過ごす。日本人留学生が陥りがちなパターンである。

特に日本である程度英語が出来ていた人は、本場とのギャップに相当落ち込むらしい。「日本ではあんなに英語を話す友達がいたのに、ここでは一人も出来ない」。America人は、はっきり言って日本人に興味はない。自分の意見を言わないからだ。日本人は自分をアピールすることが下手なようである。当然のことだが外国人の友人はなかなかできない。それではどうすべきか。場所を日本に移してみよう。

日本に来る外国人は、日本について興味がある人、日本で仕事をしている人等日本のことを知りたがっていると思う。留学するほどの英語力があれば、彼らとの意思疎通は問題ない。言葉に多少問題があろうとも、どんどん話しかけて、積極的にコンタクトを取る。彼らにとっても日本人と交流することは日本を知るきっかけとなるのだ。こうして知らず知らずのうちに、友達兼英語の先生が増えていくのである。



大学の寮にて友達と

亀井さんにとってのAmerica留学は英語を学ぶためだけでなく、日本を外から見て自分自身を知るうえでも貴重な経験だったそうです。また留学生活の厳しさを感じたそうです。様々な留学生達と交流していく上で、日本の大学生活とは全く違い、自分自身の目標をしっかりと立てて、それを実行していく強い意志が必要であるとお話をされました。

もちろん有意義な留学生活を送っている学生も多いですが、ちょっとした気持ちの隙間に入り込む悪魔の囁きによって、せっかくの留学生活が無駄になってしまいしまうケースもあります。留学前の準備を怠らないことが大切なことのようです。

会員紹介／こんにちは、コ・ン・ニ・チ・ハ／みなさん、どうぞよろしく！

とも まな たの
共に学ぶ楽しさ



やまと れいこ みもみほんごうざいじゅう
山本 禮子（実糸本郷在住）

若い学生と共に生きた45年の教師生活、その生活との訣別後間もなくある友人との邂逅が、現在の生活の基礎を築くことになった。4ヶ月の心ときめく養成講座、よき師・よき友との交流を通して、今年1月から待望の日本語ボランティア講師になることができた。一般に社会人の学習意欲は旺盛である。開校当初の放送大学で痛感したことがある。

さて、今年の1月からは、在住外国社会人の方との日本語学習。各人その背景を異にしている。しかし、日本語の学習という明確な目標があることは幸せである。ただ、最初のSさんとの学習が中断したことは今でも心にかかる。日本語ボランティア講師としての限界とともに、在住外国人の生活の厳しさを受け止める機会となったことは感謝である。現在共に学ぶペルーの若い女子青年の異言語習得能力の早さに驚嘆し、日本語についての機微に触れる質問にしばしば感動している。この他、フィリピンや韓国的小学生との勉強、これも面白い。平仮名、片仮名は1ヶ月で習得。異文化圏の障害を克服し、吾がものとしていく過程を観察しつつ、「共に学ぶ」醍醐味を味わっている。

自由な交流を願う水曜日昼のあすなろ会を、みんなで自由に創り出していきましょう！

にほん せいいかつざつかん
日本での生活雑感



しん みん ふじさきざいじゅう
申 敏（藤崎在住）

皆さん、はじめまして。私は申敏と申します。韓国から来て、1年半が過ぎました。初めて日本に来た時は平仮名も片仮名もわかりませんでした。言葉ができないので、外に出掛けられませんでした。会話が出来ない頃の生活は、真っ暗なトンネルの中にいるみたいでした。はじめは独学で平仮名と片仮名を勉強しました。日本語学校へ入学するためにいろいろ調べましたが、授業料が高く、遠いので困っていました。その時、用事があって市役所に行った折に、置いてあった市内案内書を見て、習志野市国際交流協会に日本語を教えているボランティア教師の組織があることを知りました。勇気をもってひとりで協会に行き、日本語教室へ申込みをして勉強を始めることができました。沢山のボランティア先生がいらっしゃっていて、一生懸命、外国人のために日本語を教えていました。私は、子どものような言葉で話しかけたり、身振り手振りで先生と会話をしました。先生は、私が何を話しているか推測しながら理解してくださいました。普通の人達との会話では想像できないほど意思の疎通ができました。私は勇気をもつことが出来たのです。先生のお蔭で今は日本人との会話が怖くなりなくなり沢山の友達をつくることが出来ました。まだまだ勉強不足ですが、一生懸命勉強して自然に会話が出来るように努力したいと思います。

しょうらい ぎじゅつしゃ
将来はIT技術者に



くらもち みもみざいじゅう
蔵持ラルフ（実糸本郷在住）

僕は蔵持ラルフと言います。去年の4月1日にフィリピンから妹とともに日本にきました。僕は16歳で、今年高校1年生になりました。僕の学校は習志野高等学校です。僕の好きな授業は数学、体育とともに英語です。他の授業は少し難しいですが、もっと頑張りたいと思います。僕の趣味はバスケットボールです。部活もバスケットボール部に入っています。学校の授業時間は午後5時35分から8時45分までで4時間ぐらいです。習志野市国際交流協会で毎週火曜日に漢字を勉強して、水曜日には日本語の文法を勉強しています。

フィリピンではコンピューターを小学校から勉強しました。将来は日本でコンピューターの技術者になりたいと思っています。

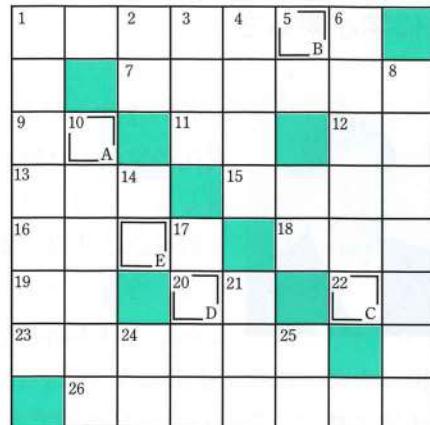
Letsチャレンジ／ザ・英文クロスワードパズルNo.55/プレゼント付！

〈Across〉

- One of country in South East Asia, which located east coast of the Indo China Peninsula. Independence is 1976.
- Person who playing golf.
- Left Hand
- Public Relations
- District Attorney
- American Expeditionary Forces
- In the midst of
- A slender Pointed piece of metal used for driving into or through wood.
- (Wet) Nurse (England)
- Created, credit, creditor, crown etc.
- Old English
- National Academy
- Convoy
- Fit to be eaten.

〈Down〉

- Drapery hanging from an edge, as of an altar table.
- For example
- The highest part, point, or level of a thing.
- National Labor Relations Act
- Allied Forces
- Middle
- Send out rays of (light or heat).
- Carriage, car, for carrying coffin.
- For instance
- Plunder, pillage
- Period in history.
- A chemical symbol for calcium.
- Torpedo-Boat



〈出題者〉御園生 馨 (編集部)

〈応募要項〉

クロスを解いたあと、A~Eの文字をつなげてできたことばが正解です。

解答と住所、氏名、年齢、職業、電話番号、本誌の感想等を書いて送って下さい。解答は、ハガキ、FAX、Eメールで10月末日までにお送り下さい。

正解者の中から抽選で5名の方に、図書券をプレゼントします。

「N.I.A.スクウェア」編集部まで。
たくさんのご応募お待ちしています。

N.I.A.歴史と文化の旅（日帰りバスツアー）

今年度の交流バスツアーは、歴史と文化のまちである栃木県足利市を訪れます。史跡のまち足利市には、日本最古の総合大学「足利学校」や足利尊氏を生んだ足利氏の氏寺である「鎌阿寺」等があります。又、今回の旅のハイライトは、世界最大級の陶磁美術館である「栗田美術館」で伊万里、鍋島の美術品を堪能します。自然を生かした景勝の地に点在する展示館を散策し、お土産の陶磁器を求めるのも楽しみの一つです。皆様の参加をお待ちしています!!

旅行日 2001年10月20日（土）

参加費 5000円

募集人員 30名（先着順）

コース（出発午前8時予定）

習志野市役所-習志野I.C.-（湾岸道、首都高速、東北道）-佐野、藤岡I.C.-（国道50号）-足利市-栗田美術館-足利学校-鎌阿寺-太平記館-佐野I.C.-（東北道、首都高速、湾岸道）-習志野I.C.-習志野市役所（帰着午後7時予定）

申込み N.I.A.事務局へ ハガキまたはFAX、Eメールで

編集後記

*ベトナムの漢字は、既に消滅のこと。「片仮名外来語が蔓延し誤用されている日本の漢字文化にも一抹の不安を感じる」とベトナムの友人の忠告。(Y.T)

*自分の可能性を自分自身で判断することの難しさを、いつも取材を通して感じます。周囲の様々な意見に耳を傾けることで、初めて気づくこともあると思います。「自分自身の意見を大切にしながら、他人のアドバイスを受け入れる」両者のバランスを保つことは私にとって永遠のテーマです。(N.I)

*地球上の一点に過ぎない習志野市の協会誌に、これだけ様々な国や人の記事が掲載されるようになったのもグローバル化の顕著な現れと言えます。誌面をさらに充実させたものとするため、読者の皆様から気軽にホットニュースや要望等が送られてくることを期待しています。(H.H)

*「ベトナムと言えば枯葉剤」。こんな暗い嫌なイメージを持っていた人達も、今回の特集記事を読んで明るく希望のあるイメージに変わったことだと思います。私もそのうちの一人ですが。(K.M.)

*情熱で完全燃焼した真夏の夜のサンバ。残ったのはスマイル！(K.N)

*ベトナムは肥沃な大地の国です。20世紀は戦争で領土を荒らされました。ようやく自立した国として新たな飛躍の時を迎えているのかもしれません。(T.K)

*3ヶ月の夏休み。ベトナムの子ども達は夏休みどんなことをして遊ぶのかしら。セミ取りとかスイカ割とかするのかなあ。(Y.K)

前回の解答

〈解答〉 HONGKONG

K	I	N	G	D	O	M	
I		A	T	O	M	I	C
C	G		C	E		C	H
K	A	N		S	A	R	I
O	R	A	L		T	O	N
F	T		E	I		N	E
F	E	M	A	L	E		S
R	E	P	L	A	C	E	

当選者

宮間しおりさん 下田 章代さん
大槻 里紗さん 遣水 篤子さん
久保 美遙さん 正解者は16名でした。

N.I.A.スクウェア・第55号

発行2001年9月1日/発行責任者・林 安次

編集・習志野市国際交流協会

編集責任者・館川 裕

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼5-12-12

サンロード4F

TEL/FAX 047-452-2650

<http://www.city.narashino.chiba.jp/nia/>

<Eメール> nia@city.narashino.chiba.jp